

大きな海原を勇壮に走る “北田 浩” 氏

40歳でヨットに出会い、これまでに3度大西洋の横断を達成したオーシャンセーラー。愛艇の《^{きほ}貴帆》は奥様と娘さんの名前から一文字ずつもらって命名したという。



40歳の頃から国内のレースにエントリーし実力をつけ、45歳の時、国内最長【沖縄～東海ヨットレース】720マイルに挑戦。
48歳で米西海岸からハワイを目指す【トランスパック】2,300マイルに挑戦。
51歳で英プリマスから米ニューヨークまでの単独横断レース【ザ・トランザット】3,500マイルに日本人として初参戦・初完走。
54歳で自身2度目となる単独大西洋横断レース【ルート・デュ・ラム(フランスのサンマロからグアドループ)】3,500マイルに日本人として初参戦・初完走。



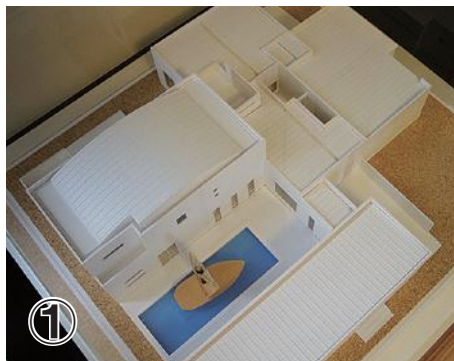
操縦は衛星通信などを使いパソコンで気象解析を行いながら進行方向を決めていくデジタル仕様

東通村に凄い人がいるんです

古野牛川出身の北田浩さんは、200人の従業員を抱える会社の経営者であり、世界のオーシャンレースで大西洋の横断を3回達成した(その内2回は単独・完走)オーシャンセーラーです。

ヨットとの出会い

ヨットに出会ったのは40歳の頃で「古野牛川出身で親が漁師だったから海や船に馴染があったんだけど、新しく家を建てる場所に海が無かったから寂しくて、庭にプールを作ったヨットを浮かべたらカッコイイかなあと思ってさ」そう話す北田さん。実際に探していたサイズのヨットは日本では見つからなかったそうで、電話をしてもほとんどの業者からは相手にしてもらえなかったそうです。そんな中、ある業者から「小さいものは無いけれど、実際にヨットに乗ってみませんか？」と試乗を勧められて乗ってみたところ「初めてヨットに乗った時は、エンジンの音もなく波の音だけが聞こえて、風だけで進む。この感覚にはすごい！って感動したな」と話す北田さん。



①当初計画していた家の模型 ②上空から撮影した愛艇《貴帆》 ③愛艇《貴帆》が掲げられたセール

感動して一目惚れしたヨットを衝動買いしたため、プールを造るための予算が無くなってしまったので「プールになる予定だった自宅の庭が、芝生に変わったよ」と笑って話してくれました。

レースに出ようと思ったキッカケ

「はじめは青森市沖のレースとかに出てみたんだけどダントツのビリになっちゃってさ、そこで、負けず嫌いのスイッチが入った」と本格的にレースに参加するキッカケを教えてくださいました。

その後も別なレースに参加したものの、そこでもビリになり専門業者に聞いてみたところ、乗っているヨットがレース用じゃなく、クルージングヨットだからスピードが出ないと教えられました。

それからレース用のヨットに買い替え、様々なレースに挑戦したそうです。

心に刻まれたレース

様々なレースに挑戦した北田さんですが、一番印象に残っているレースについて伺うと「英プリマス〜米ニューヨークへのレース“ザ・トランザット”かな。映画タイタニックに出てくるコースを実際に走ったんだけど、風速50ノット（秒速25mほどの強風）の風が吹いたり、

ビルの上の2〜3階くらいの高さの波から何回も落とされて、さすがに命の危機を感じたね。船が半分に分かれて沈むのかなあって。そう考えると、一番大変だった分、一番思い出に残っているかな。ゴールの自由の女神が見えた時、おお着いたー！って感動したなあ」と話してくれました。

ヨットの魅力とは

「思い通りにいかない所かな。船を仕上げて、筋トレして、完璧に準備しても自然相手だから思った通りにはいかない。でもそこが面白い。そういう困難を乗り越えて、達成感で得られるんじゃないかなあ」と私は思う。やってみることは大事だよ」と挑戦することの大切さや難しさを教えてくださいました。

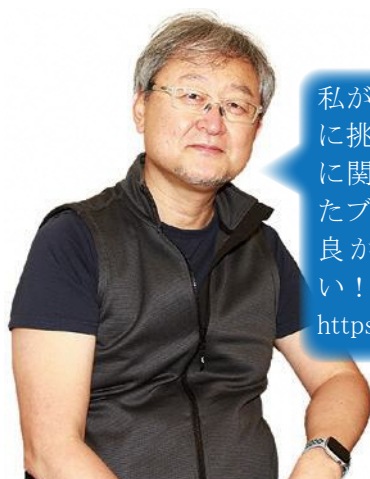
今後の目標・夢について

「2023年に“ザ・レースアラウンド”っていう世界一周レースが計画されている。2025年にも豪メルボルン〜大阪っていう大阪万博の年のレースがあつて、出来れば出たいなあ。今のところ妄想なんだけどね」とこれからについても話してくれました。

今後の活躍にも期待したいと思います。



“ザ・トランザット”のレース後、自由の女神をバックに



私が世界の様々なレースに挑戦した内容やヨットに関することなどを綴ったブログです。良かったら見てください！

<https://www.jpn6339.com/>

※撮影時のみマスクを外しています。

こちらの写真以外は全て北田さん本人より提供